この冬に
流行るかもしれない
感染症に備えよう!

井原市立井原市民病院
感染管理特定認定看護師
佐藤正明

2026年11月6日（金）



本日の内容

- 慣れた頃こそ原点に！標準予防策について
- 冬季に忍び寄る感染症
- 嘔吐物処理ー正しく、迅速に、安全にー



本日の内容

- **慣れた頃こそ原点に！標準予防策について**
- 冬季に忍び寄る感染症
- 嘔吐物処理ー正しく、迅速に、安全にー



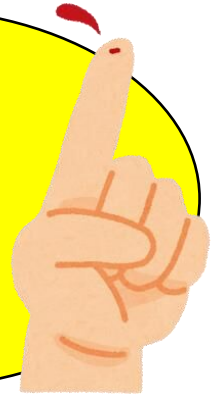


標準予防策とは①

全ての人



血液



汗を除く
全ての体液・
分泌物・排泄物

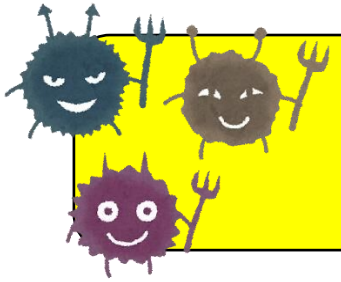


粘膜

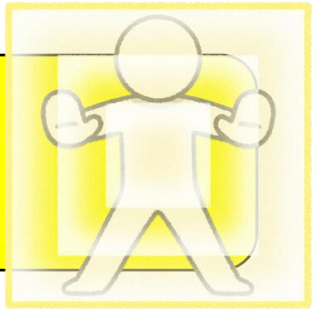


損傷した
皮膚（傷のある
皮膚）





感染の可能性がある物質と見なして対応する



標準予防策とは②

なぜ、**標準予防策はすべての患者を対象に実施する**必要があるのか？



検査で、感染症と分かっている人は「氷山の一角」に過ぎません。すべての患者の感染症の有無を知ることは、現実的には不可能です。
病原体を持っていても、検査をしていない人。
潜伏期間中で症状が出ていない人。
検査では分からない未知の病原体を持っている人がいるかもしれません。

「誰もが何らかの病原体をもっているかもしれない」と考えて、すべての患者に分け隔てなく適用するのが **標準予防策** です。



高齢者施設で実施できる基本的な感染対策



手指衛生



個人防護具の
適切な使用



使用後物品の
洗浄・消毒



環境清掃

手指衛生の方法

流水＋石鹸



30秒以上

目に見える汚れが**ある**時

擦式アルコール消毒



擦り込む

目に見える汚れが**ない**時



手には　菌がいっぱい

感染が成立するまで



病原体

病原体を運ぶ

人間

「病原体を運ぶ」のは人であり、人の手によって運ばれていく

感染を成立させないためには、**この感染経路**を遮断すること

個人防護具（PPE）について①

標準予防策「個人防護具（PPE）の適切な使用」

個人防護具を使用する目的

・湿性生体物質に自分が曝露しないために使う



・自分に病原体がついたまま、他の患者や環境・職員へ拡げないために使う



個人防護具(PPE)について②

個人防護具(PPE)の着用場面

すべての患者の湿性生体物質に接触する際、

どの部位が汚染されるかによって防護具を選択する。

目の前の患者の
湿性生体物質が・・・

標準予防策

- 目に入るかも → フェイスシールド
- 手に触れるかも → 手袋
- 口に入るかも → マスク
- 体に触れるかも → ガウン、エプロン

自分の粘膜を
病原体からを守れ





身体部位の交差汚染を防止するため、患者毎、処置毎の交換である。

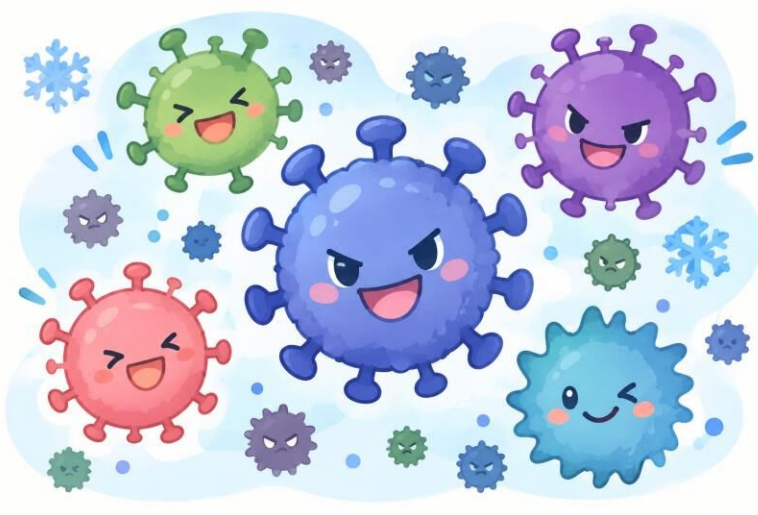
本日の内容



- 慣れた頃こそ原点に！標準予防策について



- **冬季に忍び寄る感染症**



- 嘔吐物処理ー正しく、迅速に、安全に

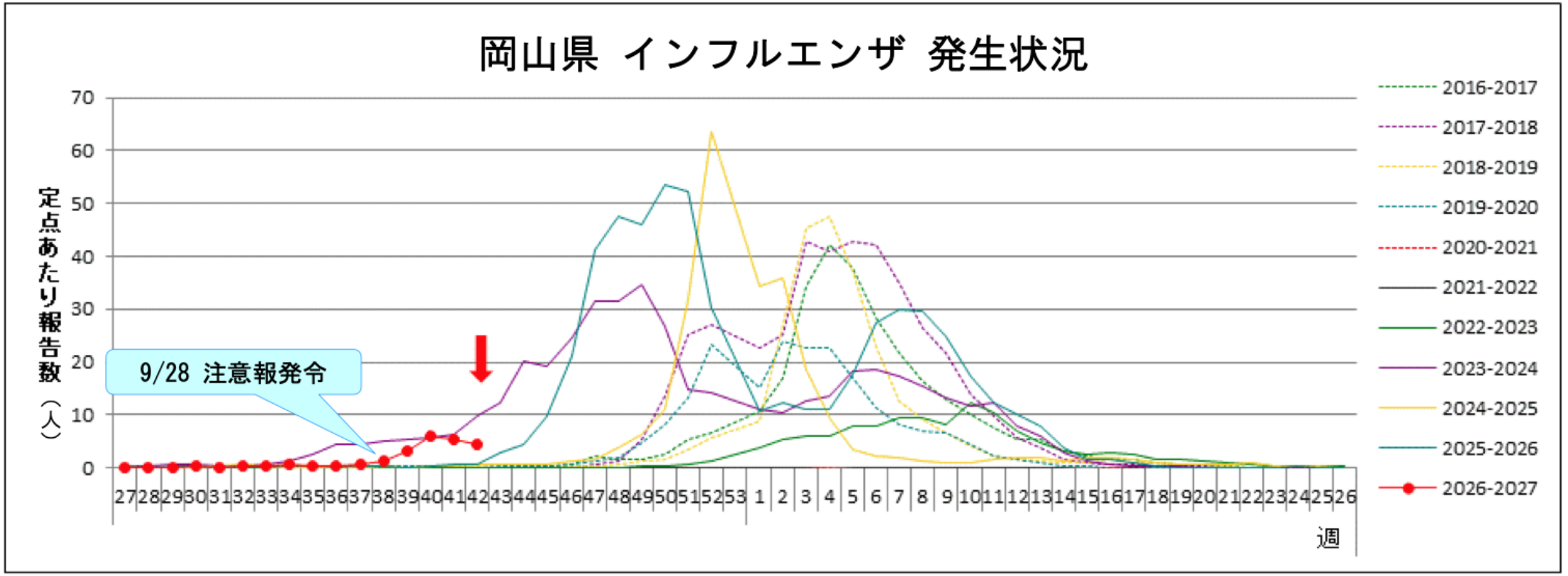
インフルエンザ（季節性）とは

- インフルエンザウイルスに感染することで起こる感染症
- 日本では、例年12月～3月が流行シーズン
- 流行シーズンは年によって変動する場合もある

年ごとの流行（岡山県）

【第 43 週　速報】

○インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 10 施設でありました（10 月 19 日～21 日）。



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、第 27 週 ～ 翌年第 26 週で、グラフを作成しています。

※ 2025 年第 15 週以降定点がインフルエンザ/COVID-19 定点（84 医療機関）から ARI 定点（50 医療機関）になりました。

岡山県ホームページより引用

インフルエンザの症状



高齢者は特に注意

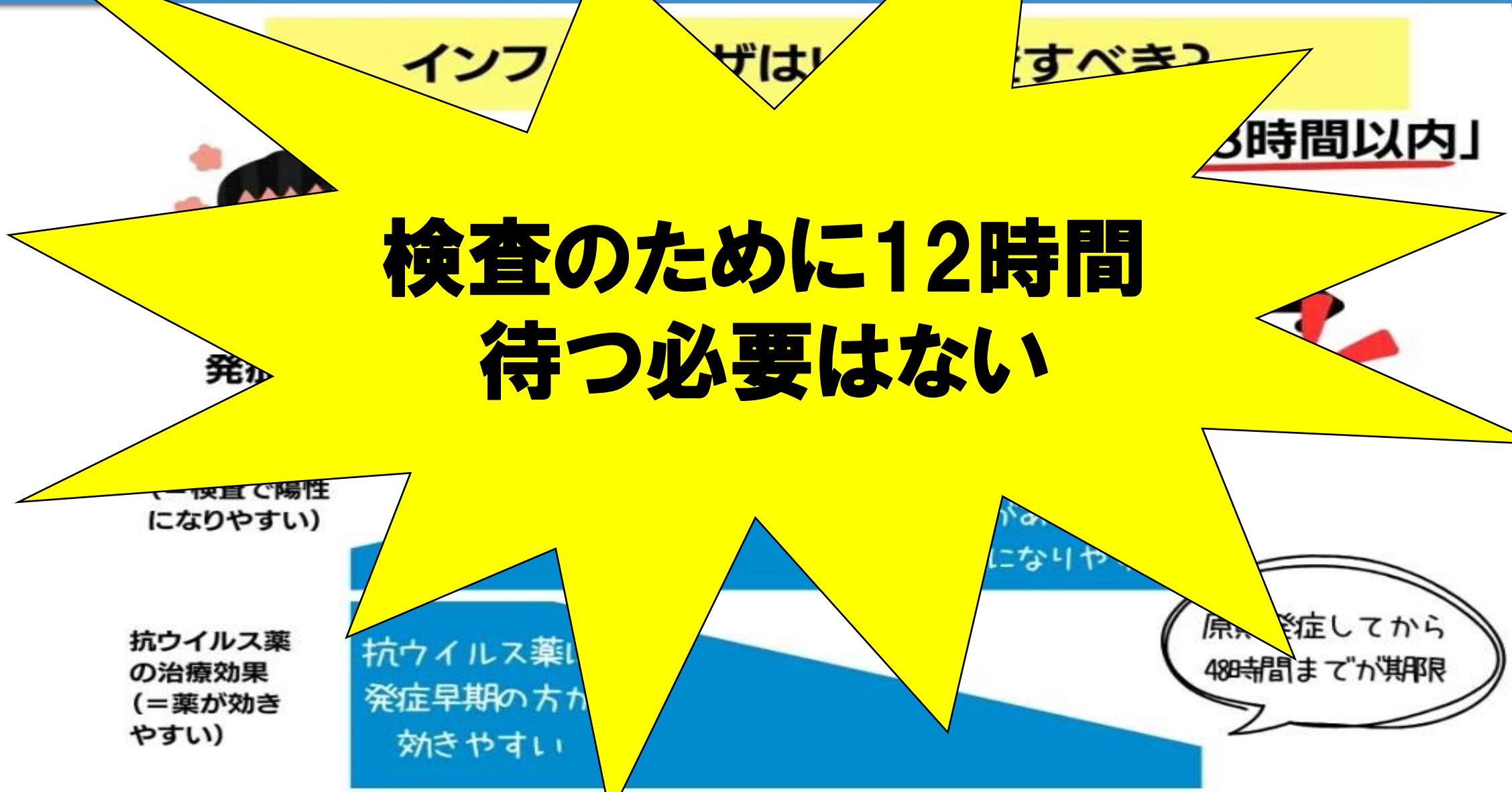
高齢者や基礎疾患を有する人は、**原疾患の悪化**や感染症の合併により、**重症化または死亡する**ことがある。

インフルエンザの感染経路



- 主に飛沫感染（接触感染）
- 感染した人が**咳やくしゃみ**から出す飛沫（水分を含んだ、重い微粒子）を吸い込むことで感染する。
- 環境に付着した飛沫を手で触り、その手で**自分の鼻や口を触る**と感染が成立する可能性があります。

検査のタイミングについて



インフルエンザの治療方法

- 抗インフルエンザウイルス薬の服用を発症から48時間以内に開始すると、発熱期間は通常1～2日間短縮され、鼻やのどからのウイルス排出量も減少する。

- 症状が出てから48時間以降に服用を開始した場合、十分な効果は期待できない。

予防と対策



手指衛生



サージカルマスクを着用



ワクチンを接種する

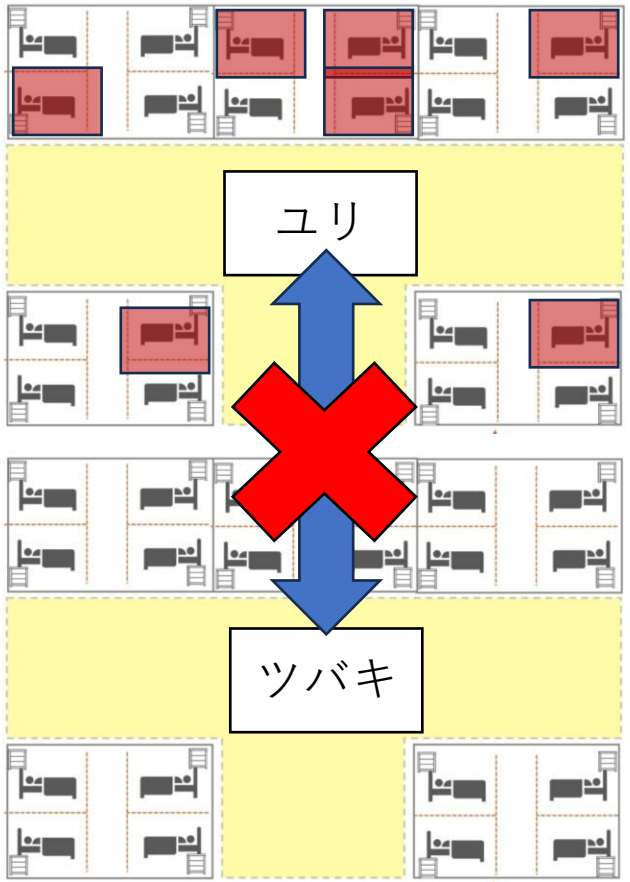
インフルエンザが集団発生した場合



コホート隔離

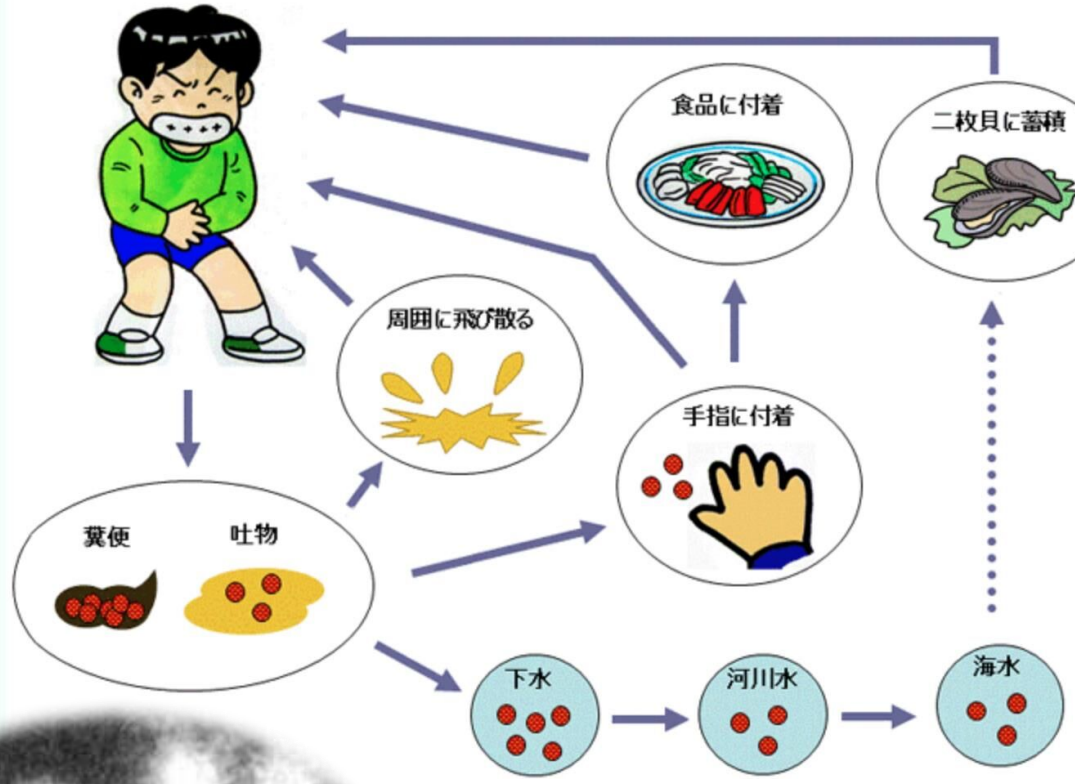


集まっての食事の中止

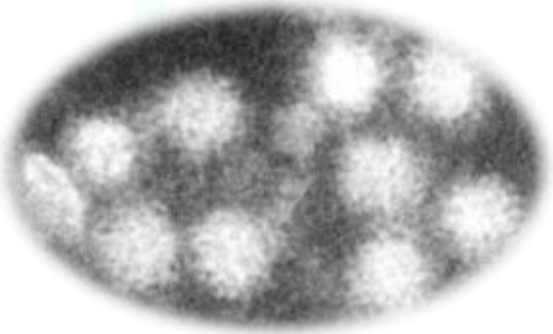


スタッフ及び利用者の
動線の固定

ノロウイルスとは



北海道立衛生研究所　ホームページ　引用



ノロウイルスの電子顕微鏡像
国立感染症研究所ホームページ　引用

- **感染性胃腸炎の原因と**なるウイルス、食品を介して食中毒を起こす。
- 非常の少量（100個以下）の摂取でも発症する。
- 主感染経路は経口感染で、糞便や吐物から**人の手を介して**の二次感染。乾燥後にノロウイルスが**空中を飛散し、この微粒子から**感染することもある。

余談ですが



１日約200Lの海水を取り込む

主な症状

- **潜伏期間は24～48時間**
- 主な症状は吐き気、嘔吐、下痢、腹痛で、発熱は軽度。
- このような症状が1～2日続いた後、治癒にむかう。

保険適用の有無について

- 悪性腫瘍の診断を受けている患者
- 臓器移植後の患者
- 抗悪性腫瘍剤、免疫抑制剤、または免疫抑制効果のある薬剤を投与中の患者
- **3歳未満、65歳以上**を対象に健康保険が適用される。

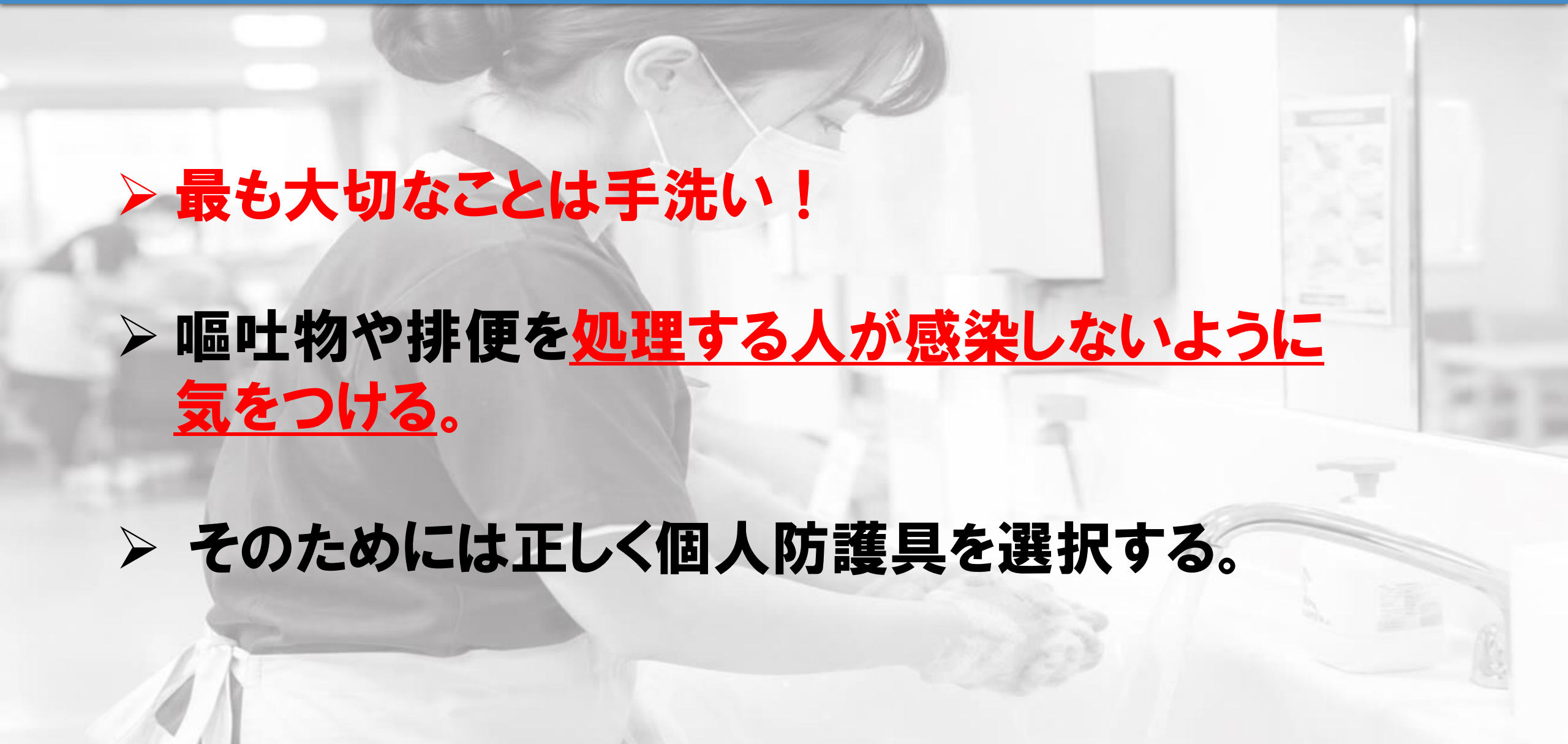
（検査は特別な治療がなく対症療法となるため、原則として保険適用外）

治療方法

- 効果的な抗ウイルス剤はなし。
- 通常は**対症療法**が行われる。



予防と対策



- **最も大切なことは手洗い！**
- **嘔吐物や排便を処理する人が感染しないように気をつける。**
- **そのためには正しく個人防護具を選択する。**

本日の内容

- 冬季に忍び寄る感染症
- やっぱり標準予防策は大事だよ



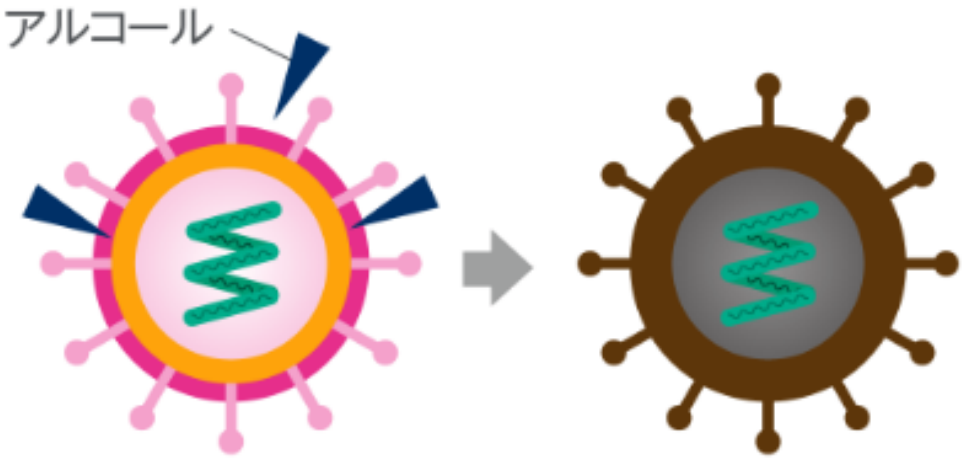
- **嘔吐物処理ー正しく、迅速に、安全にー**





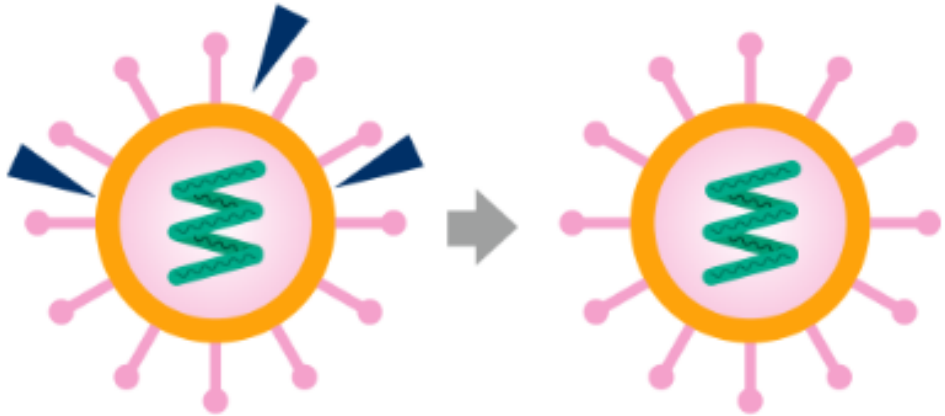
アルコールが効かないウイルス

エンベロープウイルス



アルコールが膜を破壊してウイルスにダメージを与える

ノンエンベロープウイルス



膜がなく、アルコールに強い

代表的なノンエンベロープウイルス
・ノロウイルス（少量のウイルスで感染）etc

知っておきたい細菌・ウイルス | 細菌・ウイルス | 感染と予防 | サラヤ業務用製品情報 PRO SARAYA

ノロウイルスに使用する消毒

次亜塩素酸ナトリウム消毒薬の使用が一般的
（安価で消毒効果も高く、良い消毒剤）



しかし！デメリットもある

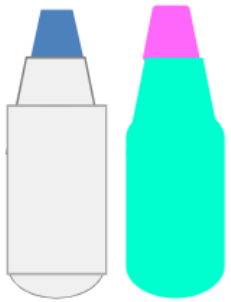
- 適切な濃度調整が必要
- 作り置きができない
- 金属を腐食させる　等

1000ppmの塩素液の作り方

塩素消毒の方法

業務用の次亜塩素酸ナトリウム、または家庭用の塩素系漂白剤を
水で薄めて「塩素液」を作ります。

＊濃度によって効果が異なりますので、正しく計りましょう。



	食器、カーテンなどの 消毒 や 拭き取り 200ppmの濃度の塩素液		おう吐物などの 廃棄（袋の中で廃棄物を浸す） 1000ppmの濃度の塩素液	
製品の濃度	液の量	水の量	液の量	水の量
12%（一般的な業務用）	5ml	3L	25ml	3L
6%（一般的な家庭用）	10ml	3L	50ml	3L
1%	60ml	3L	300ml	3L



- 製品ごとに濃度が異なるので、表示をしっかり確認しましょう。
- 次亜塩素酸ナトリウムは**使用期限内**のものを使用してください。
- おう吐物などの酸性のものに直接原液をかけると、**有毒ガスが発生することがあります**ので、必ず「使用上の注意」をよく確認してから使用してください。

厚生労働省ホームページ引用

日頃から準備しておくと良い











群馬県ホームページ
衛生環境研究所　引用

嘔吐した時の対応

- 他の利用者を**離れた場所に移動**させる。
- 嘔吐物の飛散を防ぐために**新聞紙などで覆う**。
- 窓を開けて**換気をする**。
- 嘔吐物を片付ける人は**マスク、手袋、エプロン**をつける。
  （シューズカバーがある場合は使用する）

嘔吐した時の対応



嘔吐した時の対応



嘔吐した時の対応



嘔吐した時の対応



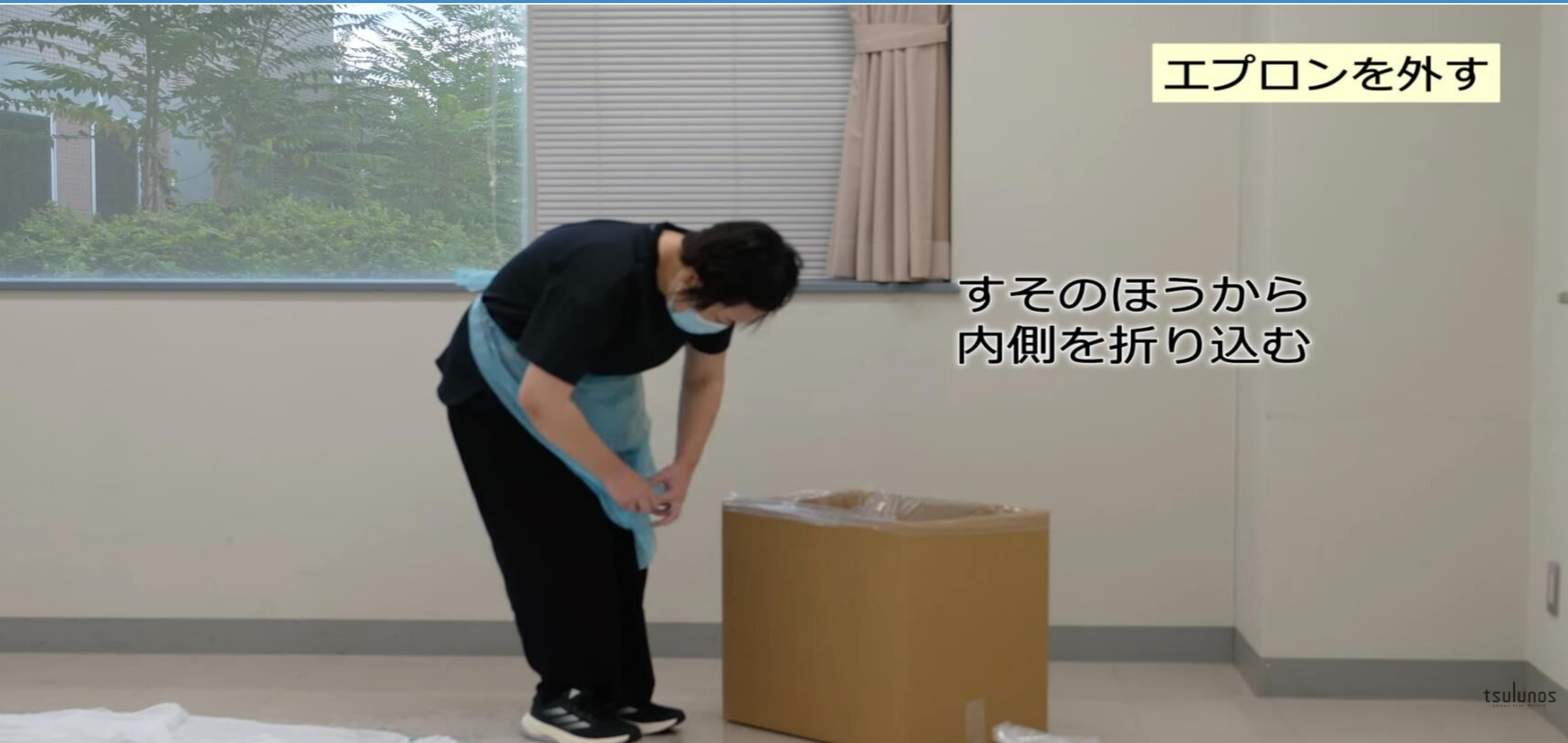




嘔吐した時の対応



嘔吐した時の対応



引用・参考文献

1. 坂本史衣. 基礎から学ぶ医療関連感染対策標準予防策からサーベイランスまで,南江堂,東京,2014
2. 長谷川素美. INFECTION CONTROL,株式会社メディカ出版,大阪,2020
3. 大曲貴夫.感染管理・感染症看護テキスト,照林社,東京,2015
4. 武良由香.地域連携に役立つ！感染管理認定看護師のための感染対策フォローアップ実践BOOK,株式会社明昌堂,大阪,2024